

震災30年トップチームとつなぐメモリアルウォーク(2025.1.11) 参加者(代表者の方)メッセージ

震災当時は、神戸市内に勤めていた妻から惨状について聞かされ 私自身も(半年ほど経ってからでしたが) 三宮辺りの惨状を目の当たりにして衝撃を受けたのを覚えています。中越地震の際は、たまたま居た長岡で激しい揺れを体験すると共に、4日ほど足止めされ市内の被災者と共に過ごすこととなりました。日本に住む限り、地震を含め様々な災害から逃れようが無い事を自覚するとともに、いざと言う時に動き回れるよう自分の体力・気力の程を再確認するために今回のメモリアルウォークに参加させて頂きたいと思います。

須磨-神戸間、徒歩通勤をしました。倒壊した建物、焼失した建物が多くある中、残っている建物に救われました。

震災の時には元気だった父も亡くなり、30年を一緒に迎えるはずだった母も今年急逝し、複雑な気持ちで迎える30年になります。震災で亡くなった多くの方や父母のことを思いながら歩きたいと思い応募させていただきました。

震災で長田区の自宅が全壊しました。両親と私の3人はなんとかかたいした怪我もなく避難所で不安な日々を過ごしました。避難所から大学に歩いたり自転車で通い、国家試験の勉強も避難所で懐中電灯でしていました。友達や親戚には沢山助けて頂きました。

当時中学生だった私。自宅のテレビで火事の様子をみてショックだった気持ちはいまでも思い出します。

突き上げるような縦揺れを体験し、近隣の建物が倒壊したのを目の当たりにして直下型地震の恐ろしさと備えの重要性を実感致しました。

当時、29歳でした。家族は無事でしたが、知り合いの何人かお亡くなりました。来年度は還暦を迎えます。あの経験を忘れないためにも参加したいと思います。よろしくお願いします。”

もっと活気ある街になればと思います

メモリアルウォークは毎年参加しています。震災以来変わりゆく神戸市内の状況を確認できます。

以前参加しようと思っのですが急用で行けなくなり悔いが残っていました。震災から30年という事もあり当時のことに思いを馳せながら参加したいです。”

毎日、西体育館で備品の仕分けに明け暮れていた。

神戸ゆかりの企業に勤めております。震災を経験した者と経験していない者で当時の思いをつないでいきたいと思ひます。

震災当日の1週間ほど前に、須磨から引っ越したばかりでした。

震災当時は京都にいましたが、縁があり神戸に住むことになりました。これからも元気な神戸であって欲しいです。

長くて短い30年でした。

伊丹市で、震災を経験してから30年数年前には家族でも参加したメモリアルウォーク 今年1人ですが、節目の年を考えながら歩いてみたいです”

JRがストップしている間は、須磨駅から1時間以上かけて、瓦礫や自衛隊風呂を横目に見ながら通勤していました。

震災の日に上司2人を車に乗せて出勤して以来、大変な毎日でした。その後のリストラ策を実施する時の方がしんどかったです。もうあれから30年 あっという間に過ぎ去った感があります。元神戸市職員より

震災時は生まれていませんでしたが、母から当時の話をよく聞いています。日頃から防災教育を熱心に行っていた神戸市に大変感謝しております。

当時はこわかった

震災当時、私は埼玉県に住んでおり、直接被災したわけではありませんでした。しかし、大学進学の際にあしなが育英会の運営している神戸レインボーハウスに入塾することが決まり、そこで初めて震災の詳細を知りました。震災があり、神戸レインボーハウスが建ち、今の自分があります。震災が無かったら今の自分は存在していません。これからも忘れない為にもメモリアルウォークに参加することを強く望みます。

震災の翌日の朝 三宮そごう屋上が傾いていました。市役所表面の電話には長蛇の列で電話を待っていました。”

神戸が全体が元気にならないといけない。中心街だけでは盛り上がらない。

1995年1月17日午前5時46分、突然の大きな揺れに一瞬何が起きたかわからなかった。夜が明けても火事の煙のため空が暗かったのを覚えている。近所の観音山公園から見た燃え盛る長田区の街を見て愕然となった。夜、電気も使えず、あの時ほど明かりが恋しいと思ったことはない。

震災当時、5階建ての5階に夫婦、高二、高一、中一の子供達と住んでいた。家具の上に置いていた物が落ち、電気釜にセットしていた生米がこぼれ、靴履いて家から出ると、南側の長田区方面あたりから火事の煙が上がっていた。学校行ける状態でない判断し、姫路の実家に避難した。ガスが開栓するのを契機に自宅に戻った。水や食料のない避難生活は送らずにすんだが、市役所5階は押し潰されなくなり、三宮あたりの建物は倒れたり、傾いている建物もあり、危険な状態だった。あれからここまでよく復興したなど、神戸の頑張りを感じます。復興した海岸を歩いてみたいです。

阪神淡路大震災の時は生まれていませんでしたが、学校の授業で当時の映像などを見て学びました。大学では震災について学ぶ機会がなくなったことから忘れかけていましたが、石川県の地震で地震の怖さを思い出しました。日頃から地震や災害を意識して過ごしたいと思うようになりました。

灘区で被災しました。その日に電気が通ったので自宅で暮らしました。山口組で分けて貰った井戸水を常に風呂桶に満タンにして家族が安心してました。水タンクを手に入れたら多くの知人に届けました。”

転勤で神戸へ越してきました。震災を忘れないためにも参加したい”

神戸市に住むようになって43年、海と山が身近な街、大好きな街です。震災時は近くの中学校に小さな子供2人を連れた5人で避難したこと、知らない近くの人から焚き火で焼いた魚を分けて貰ったことも忘れられません。元気な神戸の発展を願っています。

震災当時は大へんな事態だったと思います。震災30周年を迎えるのにあたり、決して風化をさせることなく、後世へ伝えていきたいものです。”

小学校4年生の時に今の自宅で被災しました。長田で発生した火災の灰が垂水まで飛んできていて、とても怖いと感じたことを覚えています。同じマンションの住人と支え合いながら生活できたことが、大きな不安をかき消してくれていたと思います。

いつまでも住みたい街神戸であってほしい

被災した経験を糧に災害に強い街づくりをしてほしい

もう30年と月日がたつのが早かったように思います。震災をきっかけにお金や時間の使い方が明日をもしれない危機感に襲われ変わってしまいました。建物や景色が戻っただけでも心強く思います。

2か月と2歳の子供と寝ていてすごい揺れで目が覚めました。三宮から電車で40分の播磨町に住んでいたのが被害は少なかったですが瓦が10枚落ちました。当日雨戸を閉めテレビで情報を得ました。長田区真野町に住んでいる友達の実家が気になりました。やはり火事で新築の家が焼け両親は長い間避難所生活を送りました。”

普段はあまり付き合いのない同じマンションの人たちと、あの朝声をかけ合って近くの公園に避難しました。あれから30年、今もお互い助け合って生活しよう、という関係が続いています。

阪神淡路大震災で自宅は全壊しましたが、家族全員無事でした。そのあと避難所生活を経験したり、いろんな環境の変化がありました。あれから30年？。生まれ育った神戸で、きょうまで平穏に暮らせていることに感謝して、メモリアルウォークに参加したいと思います。”

宝塚で被災して神戸の大学に通いました。ずっと忘れることはないです。

<p>あの日は初めてヒッチハイクをしました。午後は三ノ宮から湊川まで歩きました。綺麗になった町並みを歩きながら、当時を思い出したいと思います</p>
<p>当時、県外に住んでいました。神戸で家族と共に暮らしていく上で、知りたいと思いました。</p>
<p>大好きな街です</p>
<p>当時の住所が震災の大きな被害を受けた地域ではなかったが、交通網が麻痺したため、しばらくして三宮に行くとSOGOの倒壊した姿を見て改めて地震の怖さを痛感した。</p>
<p>小学校に避難した時を思い出します。</p>
<p>あの日、生まれて一週間の息子は私の隣で寝ついたところだった。突然の大きな揺れ、とっさに私は息子を抱き寄せた。停電、暖房が切れ部屋の空気がどんどん冷たくなっていく。何が起こったのか、ただごとではないことだけはわかった。その息子も30歳になり、障害者のグループホームへの入所が決まった。自閉症のハンディを背負った彼との毎日を思いながら、巣立ちいく息子と歩きたい。復興著しい神戸のまちを。”</p>
<p>生きてて幸せ</p>
<p>復興した神戸の街を子どもたちと歩きたいです</p>
<p>寒くてたまらなかった</p>
<p>当時東灘区住吉のマンションに妻と二人で住んでましたが全壊しました。怪我もなく助かりその年11月に第一子長女が生まれました。</p>
<p>阪神淡路大震災から30年、復興を遂げた神戸の街並みを歩きながら、当時の被災した方々の想いや復興までの道筋を共に感じたい。</p>
<p>まだ真っ暗な明け方、大きな揺れで目が覚めると、足の踏み場も無いくらい、家の中はぐちゃぐちゃでした。夜が明けて、明るくなった頃には、あちこちから煙が見え始め、どんどん火は広がっていき、1日中消える事はありませんでした。街の様子を、すっかり変えてしまった震災を、30年たっても決して忘れる事はありません。”</p>
<p>自宅の垂水区は被害が大きかった断層沿いから離れてたので大きな被害ではなかったけど、東の空が赤く染まりそらからのチラチラ降る雪と一緒に灰が降ってました。長田が広く火災に見舞われてるのをニュースで知り、長田区に住む知り合いの家が全壊し、瓦礫から顔だけ出て体が埋もれ周りの人に助け出してもらってる時も常に火の粉が降っていつ燃え移るのか生きた心地がしなかったと言っていました。今も神戸市内に住みながらも幸いにも大きな被害に合わず生かされた意味を感じながら日々生きています。”</p>
<p>強い揺れが収まり、外に出ると、長田の方の空が真っ暗だった。子供も大人もできることを指示されずとも働いた。物の儚さとひとの温かさを知った。悲しいがよいこともあった。”</p>
<p>頑張ろう神戸をスローガンに奇跡的な復興を遂げてきた姿が中学生の自分にも大きな力をもたらした記憶があります</p>
<p>震災後、結婚して神戸へ来ました。娘とゆっくり歩きながら色んな神戸を知りたいと思います”</p>
<p>早いものでもう30年になります。震災後の悲惨だった街の状態。あれからこれだけ立派に復興・再生した神戸の街を再確認しながら歩いてみたいとおもいます。</p>
<p>姉が災害後神戸市に住んでいます。当時は、テレビで報道される以上に大変だったようだと思っています。何度か神戸には行きましたが、今回参加させて頂き地元の方々に当時のご苦労をお聞き出来ればと思います。</p>

震災後、公園や車で避難していたため避難所に入れず、飲まず食わずでしたが不思議とお腹も空きませんでした。4日目に親戚が大阪からバイクや自転車で駆け付けてくれ、その時、持ってきてくれた おにぎりが涙が出るほど美味しかったのを覚えています。ガソリンも運んでくれたので そのまま大阪に避難しました。当時 新長田の小学校で避難していた知人を訪ねるため、まだ電車が通っていませんでしたので住吉から新長田まで往復 父母と3人で歩きました。会えた時は互いの無事を確認できて安心し疲れも感じませんでした。現在、父は他界し母は高齢になりとても住吉から新長田まで歩けません。震災から30年を迎える節目の年、私も歩けるうちに歩いておきたいと応募してみました。大切な人や町を失い悲しいことを経験した神戸ですが、やっぱり神戸が大好きです。神戸でのイベントは神戸まつりに神戸マラソンは必ず観覧に行きます。特に震災前から応援している神戸製鋼(現コベルコ神戸スティーラーズ)のラグビーや震災後応援しているヴィッセル神戸のサッカーに加えエレコム神戸ファイニーズのアメフトと神戸を本拠地としているスポーツチームを全力で応援し、元気をもらっています。

あれから30年震災では伯父さんを亡くして復活を見て生きる力もらいます”

当日の夜、中学校の校庭で近くの全壊した家屋の木材を燃やして皆で暖を採った。

震災当日何が何だかわからない中で地域の人がやかんにお水を入れて持ってきてくれたのを思い出します。

海あり山ありおしゃれでのどかでとても大好きな街です。神戸市民として誇りを持っています。震災当時はまだ生まれていませんでしたが毎年1.17の黙とうはずっと続けていきますし、いろんな人から聴いた当時の記憶は語りづいていきたいです。

私は同時、中学生でした。朝、とても強い揺れで怖くて、怖くて。でも食器棚が落ちてきそうなのを母と一緒に懸命におさえていた記憶が、この日になると思い出されます。京都に住んでいた私ですら、怖くてこの日の事は忘れられません。毎年、東遊園地会場での黙祷には参加していますが、今回はこちらにも参加させて頂きたく応募いたしました。”

自宅マンションは半壊でした。今、思えば元気に生きてきたと実感しています。30年→速かったですね。まだまだ、頑張ります。

震災当時高校3年の受験生でした。電車が不通で、大阪に受験に行くのに日帰りでは無理で、泊まりながら受験したことが忘れられません。

神戸市内ではありませんが、住んでいたマンションが半壊となり、扉が壊れて窓から脱出せねばならず幼い子供達もいて経験したことのない恐怖を味わいました。

ひと月近く風呂に入れなかった。やっと深江の銭湯が営業を再開。1時間以上並んでやっと風呂に入った時は涙が出そうになりました。あの日から銭湯ファンです。

30年前に東灘から新長田まで歩いて帰ったのを再度挑戦したい。1995年1月15日震災前日、当時神戸市電気技術職員だった私は勤務先の第三工区にある東灘下水処理場の夜間勤務のため16時に職場に入りました。翌朝17日5時47分阪神淡路大震災発生。発生直前嫌な違和感を感じた直後横揺れが始まり、直ぐにまるで紙相撲になったような縦揺れが1分位続いたように感じました。処理場内は一瞬にして全停電、幸い直ぐに非常用発電機が起動したので仮眠中の職員を起し、各設備の確認作業を指示。私は関西電力に送電見込みの問い合わせをし、電気室などの確認に走るも埋設の受電ケーブルが建物周辺の地盤沈下により切断しているのを発見。その後自家用発電機が停止。調査すると発電機用の地下にある冷却水ポンプが、各処理水槽のひび割れ処理水漏れにより水没したと判明、後に神戸市の施設の中でも最悪の被害状況であったとか。処理不能状態になっているにも関わらず下水流入は絶えず、エンジン起動による雨水ポンプで場外放流せざるを得なくなり、人監視によるポンプの起動停止を行うこととなりました。しかし交代職員が出勤できず16日夜勤者がそのまま17日の日勤そして夜勤も続けて勤めることになり、交代職員が来たのは18日の昼でした。そこで一旦帰宅が許されましたが交通手段はなく、近くの液化天然ガス施設でガス漏れが発生しているとのことで43号線は通行止め、2号線まで迂回して自宅の新長田まで歩くことになりました。東灘・灘の民家は多くがペシャンコに潰れ、街はシーンとしていました。安全のため作業服に安全靴・市章の入ったヘルメットを被っていたため、あちこちで助けを求められる羽目に。途中からはヘルメットを脱いで歩きました。新長田に帰ると知った顔があちこちに。皆笑っている「笑ろとかなしやあないわ」ホッとできた一瞬でした。”

私は神戸で育ち、震災を経験し、結婚して息子が生まれ、来年小学校にあがる歳になりました。4歳ごろから自分の住む神戸の街で起こった阪神淡路大震災について知りたがり、人と未来防災館にいたり、私が当時の様子を話したりしていました。自分の生まれた地を歩き、知りたいと言う震災について、今とを見比べながら歩くことはとても良い機会だと思い、応募しました。ちなみに主人のお誕生日は1月17日です。家ではイナの日といっています。神戸はこの日があったから今があると、命を大切に息子にはこの先の未来を生き抜いてほしいと思い、参加を希望します。

誕生から就職するまで神戸市須磨区常盤町で暮らし、発災時は奈良からバイクで駆けつけ家族の無事を当日のうちに確認できました。空襲でも無事だった実家の店舗兼住宅は夜半の火災で焼失しました。現在は企業勤務をしながら防災士として地域の自主防災防犯会で活動し、11月は奈良市内の地元小学校の防災授業の講師をさせていただきました。

時と共に記憶が薄らいでいく、街もすっかり様変わりし震災以前より住みよくなった。あとは人に優しい、人が戻ってくる、暮らしに重点をおいた施策を願います。

コロナ以前は毎年参加していました。東灘区の実家は半壊しましたが、家族は全員無事でした。亡くなられた方への追悼の思いでウォークしたいと思います。

神戸市に住み始めて21年が経ちましたが、震災に関する情報は受動的なものがほとんどでした。今回のこの機会に以前の震災経験を再確認して、今後の防災に役立てたいと思います。

震災の時は大阪に住んでいましたが会社の同僚が実家にオートバイでカセットコンロや食料品を運んでくれて非常に感謝しました

神戸市のこれからの発展を祈っています。

30周年を機に、今の神戸を見てみたい。

入社1年目に起きた震災は今でもずっと覚えています。あれからはや30年経つんですね…。

母と2人、離れてはいけなくて家から離れられなかった。夕方、電気が回復しテレビで燃える長田の街を見て泣く事しか出来なかった自分。助けに行こうと思えなかった私。30年経っても罪悪感消えない。

前日夜、実家から一人暮らしの京都に戻った私は、当日早朝の揺れ、その後のテレビの映像ははまだ鮮明に覚えています。そしてなかなかつながらない実家への電話。仕事が手につかず何度も公衆電話に駆け込みダイヤルを回しました。職場を含め、周りはずっと変わらない風景に違和感を感じたことも覚えています。それから1週間後、友人の車を借り、たくさんの水や食料品を積んで夜通し車を走らせ実家に帰り、両親の顔を見たときの安堵感は今も忘れていません。”

あれからもずっと神戸にいます。これからも安心安全に暮らせていけるよう願います。

震災当日の早朝、地鳴りと縦にドンと落ちたあとの強烈な横揺れに、まるで建物がダンスしている様子を、昨日の様に思い出します。

近隣の家が倒壊したり火の粉が電線を伝わって来たので近所の方々と協力して大開通の陥没した時に溜まった水を利用してなんとか火事を免れました。

地鳴りで目が覚めて、物が落ちたり倒れたりする中で、長い間揺れに耐えて、おさまってからテレビを付けても、大阪の様子しか分からなかった。

震災当時は高校1年生で尼崎市に住んでいました。神戸には多くの同級生がおり学校再開後、話を聞き、同級生としてできることは何か色々協力したことを思い出します。

がんばろう神戸 に励まされて日々生活しています 30年の節目初めて一人暮らしを始めたので1年のスタートに出来たらって思っています”

震災時には神戸に住み、神戸で働き、震災に向き合った1人として、30年の節目にもう一度、当時に想いを馳せ、人生の第2ステージへと向かって行きたい。

震災当時は高校一年生で、被害はさほどではない北区に住んでいましたが、それでも揺れは大きく、寝ぼけまなこに揺れているなど感じた瞬間に、箆箆や衣類ボックス等身体に覆い被さってきて、頭がはっきりした時には身動きがとれず、パニックになりかけた事は今でもはっきり覚えています。いつ何時起こるか分からない地震に対する気持ちの備えも重要であると思いました

もう30年にもなるんですね

私は14歳の時に地震があり、妹と震えてました。

早いものでもう30年ですか。小さい子供の手をにぎって、瓦礫の街を見ながら線路を歩いたのが夢のようです。

住吉で生まれ育ちました 当時は学生で住吉公園前のダイエーでアルバイトをしていました。当時を思い出しながらウォーキングできればと思います。”

あの朝、目が覚めて布団の中でうつ伏せになっていたところ、「ごおー」と言う音と突き上げるような縦揺れに続いた横(南北)揺れは忘れられません。

実家が大きく被災。我が家は、断水 ガス停止。暫く、11人で同居。勤務先、大きく被災。2時間かけ徒歩で通勤。バス待ちより、確実でした。メモリアルウォークは、西宮～なぎさ。須磨～なぎさ。何度か体験。今回は最後かな…と思っています。

神戸ゆかりの企業に勤めております。震災を経験した者と経験していない者で当時の思いをつないでいきたいと思っています。

震災後、神戸を離れてから、24年後の昨年、ふるさと神戸に戻り住んでいます。当時は近辺にしか気がまわりませんでした。時を経て、今、町を見渡してみたいと思っています。

震災のころから、神戸は変わりました。初めての参加なので、よろしくお願いします。

当時、須磨区の自宅は被害は小さく済みました。私は、東京に勤務しており、震度7の体験はしていませんが、両親から地震の大きさを聞いています。1月19日に東京始発新幹線で神戸に帰る時に、阪急西宮北口駅から歩きましたが、様子は鮮明に覚えています。荷物が多く移動に時間がかかり阪神岩屋駅付近から回送のタクシー2台乗り継ぎ、須磨の自宅に帰る事が出来ました。当時の事を知らない人に伝え、日頃の地震への備えの大切さも伝えたいと思います。

地元住吉宮町から長田まで、見て触れて感じたいから

自身の住居周辺が瓦礫、焦土と化した光景が忘れられない。忘れてはいけない。常にこう思っている。

震災から30年が経ちました。僕自身は当時小学4年生で香川県は震度4でしたが揺れはとても大きく感じました。その後のニュース等で高速道路の橋脚が崩れる、ほか多数の死亡者との報道が出るたびに威力の凄まじさを恐ろしく感じたのを覚えています。幸いにも地元はあまり災害のない地域で危機意識としてそこまで強くはありませんが、この先起こると予測されている南海トラフに備えるきっかけの一助となれば幸いです。

当時の光景が鮮明に脳裏に焼き付いています

数年前まで参加していました

震災後、会社で募集した電器屋さんの復興支援で、半壊・全壊のお客様の住居から何とか使えるエアコンの救済などに奔走しました。あれから30年。復興から次のステージは、住み続けたい街に向けた再構築でしょうか。

震災の時は金沢の6階建ての5階にいました。凄い揺れで目が覚めテレビをつけたがなにもなかったので二度寝をして7時に起きてテレビをつけたら大変な事になっていました。16日の夜に大阪から帰ってきた子供は凄い揺れの中でも起きなかった。今は2人の生活で神戸に住んで20年過ぎました。毎年行っていたルミナリエですが、様式が変わり残念。

徒歩で通勤していたことを思い出しました。

職場が神戸、とても良い街です。市民参加イベント等に積極的に参加して神戸をもっと知りたい。”

震災当日、家のなかには家具が倒れ、水道もガスも電気もつかない状況で、私が市役所の職場に出勤すると言った時に、親父が我々を見捨てるのかと、言われたことが、ショックでした。お袋は残り飯でお握りを作ってくれて、送り出してくれた。信号が動いてないなか、車で出勤しました。

当時高校生でしたがあっという間に月日が経ちました。過ぎてしまった年月を思いながら、神戸の街を歩きたいです。

震災当時学生で、県外に出ていました。テレビで見て当日バイクで家族の様子を確認しに来ました。皆無事だなによりでした。

神戸市に引っ越して1ヶ月。住みやすい神戸のことをもっと知りたいです。

神戸の震災ではいろいろな地域の方の支援を受けました。これからは神戸から災害などで大変な思いをしている方たちの力になりたいです。

震災時住吉駅近くに勤務先がありビルが半壊、現場の悲惨さを今も思い出します

震災当時、長田区の高橋病院に入院しており、病院ごと避難していた祖父を3日間探しました。3日目に病院の避難先がわかり、その場所へ行きましたが、既に祖父は死亡していました。先日、その時の病院の状況が神戸新聞に連載されており、30年経って初めて詳しく知ることができました。改めて、病院関係者のみなさまや避難を手伝っていただいたご近所の方々に感謝しております。”

みんな平等だった。

震災時は但馬地区で仕事をしていました。震災後に神戸に戻った。

当時自宅は全壊し住むところが無くなり絶望感がありましたが色々な方の協力や支援とうつりゆく神戸の街並みに勇気をもらい今日を迎えています。色んな思い出をかみしめながら歩いてみたいですよ”

当時、芦屋市津知町に住んでいました。家の中がぐちゃぐちゃになり携帯電話も行方不明に。途方に暮れ体育館に向かいそこで2晩過ごしましたが、底冷えする床の冷たさは忘れられません。携帯が繋がらないということで大阪から自転車で自宅まで様子を見にきてくれた会社の同僚のやさしさにも感謝です。

震災当時は中学2年で箕面でもかなり揺れてその時の記憶はすごく覚えています。高校生になり私自身なにかできないかと思い学校の生徒会主催のボランティアに参加しポートアイランド第3仮設住宅に炊き出しに行きましたあの時のこともよく覚えています。神戸の王子動物園 須磨水族館はこどもの頃よく家族で行きました 兵庫県に引っ越してからは電鉄ハイキングにも参加し神戸市の長田や兵庫区などいろいろなところを歩いて新たな発見(景色など)することができました 特に北区や西区は神鉄を利用しこんな自然いっぱいなどがあるんだと知り休みの日には 気分転換に街歩きする日々です。”

震災時は 炊き出しのお手伝いをさせていただきました。被災者からの ありがとう ありがとうと 暖かい言葉が 今でも心に残っています。”

生まれてからずっと神戸市に住んでいます。震災の時は勤務先が大阪でしたので通勤に苦勞した記憶があるのと実家が半壊で建て直しました。

震災当時は、小学生でした。30年経って、街並みもだいぶ変わりましたが、今でも、あの時の光景は忘れないと思います。”

当時は3歳くらいでしたので、あまり記憶がある訳ではないですが、それでもすごく揺れたことや、小学校に避難したことは覚えています。それだけ衝撃の強いものでした。”

学生だったので一人暮らしで心細かった。電話するのに公衆電話の長蛇の列に並びました。今でも余震の地鳴り音が耳に残っています。”

震災直後から避難所での仕事を約5カ月続けました。苦労もたくさんありましたが、人として成長したように感じています。避難者から罵声を浴びたこともあったり、褒めてもらったこと等当時を振り返ると話題はつきません。震災を忘れないように、震災関連のイベントとかには出来るだけ参加したいと思います。”

当時は関東にいてテレビで見て衝撃を受けました

当時、警察官として東灘区に応援派遣で従事しました。

震災当時は小学6年で明石に住んでいたがまくらもとのゴミ箱が落ちてきて目が覚めたけどまたすぐに寝たことや親に神戸に連れて行ってもらってすごい恐ろしい状況をうっすら覚えています。

新長田で被災し、30年の歳月が経過した。あの時感じた無念な想いは消えることがない。”

当時、市バス運転士として勤務していましたが、色々な苦労が思い出されます。

家具固定の話は聞きますが、下駄箱が倒れ出口が塞がることの想定が抜けている。

神戸市に住民登録して36年。しかし、震災を挟んだ2年間は、神戸市を不在。そのため、震災を体験していません。皆さん、大変な思いをされたのに、私は…。申し訳ない思い、後ろめたい様な複雑で、1年後に戻ってきたときは、震災の話を聞くのが恐かったです。最近、震災が起こったときに備えなければと、色々心配しています。”

これからも長く語り継いでほしいです

震災当日、午後から神戸製鋼ラグビー部のV7達成のための市長表敬訪問が予定されており、たぶんないだろうとは思ったがグチャグチャになった室内からスーツやネクタイなどを引っ張り出して、1時間ほどかけて歩いて職場に向かいました。三宮に近づくにつれてスーツでなく、着替えを持ってこないかったことを後悔しました。結局、2週間は職場で寝泊まりしながら働き続けました。